

# タイ日食観測報告・ナコンサワン

白石 茂孝

## 1. 日食を見に行こう！

1995年 1月に山口県天文協会々長の小林正照さんから、2月にタイ日食の下見に行こうお誘いを受けた。残念ながら丁度用事がありお断りしたが、しかし、比較的日本から近い場所である日食なので、是非行きたかった。前回1991年メキシコのツアーを主催した、日通旅行に、数度連絡したが担当者が不在で要領を得ず、そのままになっていた。

7月になって阪急交通社の西山氏が挨拶にみえられ、日食ツアーについてアドバイスを求められた。同時に何人か日食に行きたがっていた友人を紹介した結果、必然的にこのツアーに参加する事になった。

## 2. 忙しい10月がやってきた！

この忙しさのエピローグは、9月18日に始まっていた。デビコ彗星が検出され $2^\circ$  くらいの尾をたなびかせてるという情報を得て9月中に2度ほど久住天体観測所に撮影に行ったが、雨天と低空の雲に邪魔されて確認出来ず、やっと確認出来たのが10月3日、 $2\sim 3^\circ$ と聞いていた尾が、私の双眼鏡では、 $6^\circ$ 見えていた。さらにシュワスマン・ワハマン彗星が予報よりも7等ほど増光していると情報が入り、太陽面には、極小期には珍しく大きな黒点が2個発生したと聞くと、今回の日食に向けて、太陽活動が活発かしてるのではと、期待も高まった。いよいよ日食も近づいたので、彗星を追いかけるのは、16日までと決め、月明りの中約 $3^\circ$ の尾を確認して、ようやく本格的に日食の準備を始めた。日食直前にこんなに悩ますなんて、デビコではなく、デビル彗星とでも呼びたくなる。

10月始めに友人から借受けたEM-10のスペック調査して驚いた。「極軸が $20^\circ$ 以下に向かない！」観測地のナコンサワンは、北緯 $15^\circ$ なのだ。あわてて別の友人にピクセン6Pを借りようと手配したが、結局EM-10を持って行く事に決めた。直前で機材を変えて、別の問題を抱えるのを嫌ったためだ。

## 3. 先発隊出発

10月22日朝 8時30分福岡空港ロビーに、先発隊が集っていた。総勢80名、先発隊というよりも本隊である。ツアー全体では後発の私たちを含めて83名でる。出発前の説明中、小林氏と私で、現地近くのバンコックや他地方の気象情報の交換をしたが、いずれも芳しい情報はなく心配は増すばかりだ。さらに小林氏は現地で、私は日本で気象情報等を集めることを約束して出発隊を見送った。

その後、インド日食ツアーの前田幸治氏を捜しに階下に降り、前田氏を捜す間に数人の別の

天文関係の友人を見つけ今回の日食への感心の高さを再認識した。前田氏と、同じツアーに参加していた、広島友人が天候を心配していない様子を見ると、羨ましく思えた。

#### 4. いよいよタイへ出発

10月23日私達後発隊3人は、本隊と同じ便で台北経由でバンコック国際空港へ約7時間の空の旅であった。税関を通過後現地旅行社の出迎えを受け、ボンゴで一路アユタヤのホテルへ、その路すがら世界的に有名なバンコックの渋滞を見学できた。アユタヤのホテルに17時30分くらいに到着後すぐに18時から最終打ち合せがあり、そこで2つの観測地点のうち一つに決定しなければならない。その2地点とは、ナコンサワン市内のパチャヌーコ中学校A地点と、郊外のカオドン・ウィタヤコム中学校B地点がである。私は色々悩んだ結果B地点を選択した。B地点の方が人数が少なく、いざ天候が悪く移動となった時に、すばやい対応が可能と判断したからだ。打ち合せ終了後小林氏にお願いして、ホテルの敷地でファインダーの光軸合わせと赤道儀の極軸を約5°下げる予行演習をしたかったのだ。現地ガイドさん6名と鹿児島からのツアー参加者の2名のギャラリーに手伝っていただき、ファインダー調整後、土星観望会となり、現地ガイドさん達は、土星を始めて見るばかりで、大変感激しておられた。私にとっても、タイで見る消滅直前の土星の輪は、感慨深いものとなった。

#### 5. 日食当日

前日の打ち合せで、午前3時起床と知らされ、昨夜観望が終わった10時からでも5時間、実質4時間の睡眠だった。しかし気が張詰める為か、さほどきついくもなかった。バス中で、当日の日の出を見て、本日の晴天を確信する。観測地につくとテントにから中学生が出て歓迎してくれた。現地中学生と記念写真を撮ったり、日食の展示を見たりしながらしばし時間を過す、9時頃より第1回目のセレモニーが始まったが、この時間までに校長先生が到着せず、今一歩盛り上がり欠けていたが、10時頃には、やっと校長先生を迎えて2度目のセレモニーが始まった。タイの学校側には、双眼鏡や日本酒、天体教材のプレゼントをした、後で聞いた話だが、一番喜ばれたのは日本酒らしい。後でかけつけた村長さんと校長先生が、日食中酒盛りをしていたそうである。観測地は日本の一般的な中学高校校庭の広さで、地面がやや湿気ていた。これも洪水のせいだと思っていたが、前夜雨が降った為だったそうだ。要望で張られた黄色いビニールテープで南北線が引かれ、私はその線上に赤道儀をセットした。南北線は、方位磁石で決定された南北線で、なおかつ極軸高度も正確ではないので、第一接触以後友人の対物フィルターを借りて太陽の位置とピントを確認した。私は第二接触から撮影するつもりだったので、熟の為にカメラのご動作やピントの移動を避ける為に鏡筒の輸送に使ったシートで、望遠鏡全体を覆って他の観測者の様子を撮影に向った。どこも中学生や近所の人果ては観光客までが、望遠鏡を取囲み欠けていく太陽をながめていた。また校庭には運動会の本部テントの様なものができ、



日食を見にきたのかそれとも、日食を観測に来た我々を見に来たのか、分からなくなってしまっている。自分の望遠鏡の処に戻って、極軸のずれによる太陽の視野での動きを調整すると、近くにいた一人が見せて欲しいと言って来たので、その人に見せ始めるとアッと言う間に列が出来てしまい果ては、交通整理をする始末となった。たぶん今回の観測隊の中で私のFL-102が最大口径だったので、柄も大きく興味を持たのただろう。

朝は快晴だった天候がこの頃から、太陽のある方向だけ雲が出て来て、これが日食雲というものかと思いつつ、観望を続けた。10時30分に10cmで最後の位置決定をしてる時、横にあった友人の対物フィルタを外した、ファミスコを近所の人とおぼしき人物が覗こうとしたので、慌てて大声を出して注意をした。友人がちょっと望遠鏡を離れたすきの出来事だった。事なきを得て本当に良かった！が、周囲に見物客がいるとよけい神経を使ってしまう。そうこうしてる間に、いよいよ第二接触直前、今回正確に時計を合わせる事が出来なかったのと、B地点での正確な予報が出てなかったなので、接触少し前から肉眼で太陽を見ていた。ダイヤモンドリングが始まり撮影を始めたが、前回よりもダイヤモンドリングがながく感じる。11カットも撮ってしまった、続いて皆既中は、シャッターダイヤルを見ながら撮影、この時早目に太陽を見ていた為、補色残像が見えていた37カット撮影が終わる頃は、それも消え双眼鏡で観望でき、ほぼ視野いっぱいコロナが堪能出来た。横で写真を失敗したと慌ててる友人に、双眼鏡で見てごらん綺麗なコロナが見えるよ！と手渡しても、まだ皆既の時間が残りそうなので、もしやフィルムを入替える事が可能かと欲を出して巻戻し終わった時、どうも皆既が終わりそうな感じがしたので、肉眼で観望始めて数秒後、第3接触を迎えた。

## 6. 地獄の8時間

我々は、-バンコックの渋滞を避けるために、第4接触を待たずに昼食場所へ移動、ただ、2名だけが教材にする為どうしても第4接触まで撮影したいとの事だったので、私たちと別れて、



先導してくれたバトカーでの移動という事になった。昼食はこのツアー初めてのタイ料理、さすがに辛いものがありこれは私の食欲を半減させてくれた。これを日食前に食べずに良かったとは実感だった。そして地獄の8時間近くバスの旅でバンコックへ、途中休憩は2~3度取ったものの、バンコックのホテルについたのは9時すぎ、10時から観測成功打ち上げパーティがあり、A地点も観測に成功し、まずは万々歳であった。この地獄の苦しみもデビルの仕業か？ 以後も色々な事があって、きつくて楽しいツアーであったが、紙面の都合上略させていただく。

## 7. 観測結果

天 候：晴れ（曇量30%、風景写真の情報を加味）

階 級：4（薄雲あれど拡大写真には影響少ない）

反省点：比較的早目に37カット撮影終えたが、カメラのファインダーを

覗かなかつた為に、コロナが延びてる方向に構図を変えられなかった。

フィルムを入替えられなかった。

時間合わせ、予報を独自に出して参加すべきだった。

## 8. まとめ

今回の日食ツアーは、まあ満足できるものでした。点数でいうと80点というところでしょうか？ また、今回インドは、病気やカルチャー的問題がありましたので、一概には言えませんが、晴天率が高い場所を選ぶのが基本という事を再認識しました。

